

2021 年度  
博士学位論文

## 中学校美術科における「日本絵画」教育の研究

東京藝術大学大学院 美術研究科美術専攻 芸術学研究領域（美術教育）

学籍番号 1319929

新川美湖



## 目次

序章	…5
第1章 学習指導要領と戦後教科書にみる「日本絵画」教育	…9
第1節 学習指導要領における「日本絵画」	
第1項 小学校学習指導要領における「日本絵画」	
第2項 中学校学習指導要領における「日本絵画」	
第2節 図画工作科・美術科の教科書にみる「日本絵画」教育	…15
第1項 図画工作科教科書にみる「日本絵画」	
第2項 図画工作科における「日本絵画」を題材とした学習の現状	
第3項 美術科教科書にみる「日本絵画」の取扱いの分析と考察	
第4項 美術科教科書にみる明治時代以降の「日本画」の取扱い	
第3節 戦後教育における「日本絵画」に関わる教育の考察	…61
補論 教科書にみる「浮世絵版画」の取扱い	…66
第2章 戦前の美術科教科書と「日本絵画」：明治時代の「毛筆画」教科書を中心に	…69
第1節 「日本絵画」を題材とした教科書の変遷	
第1項 「ゑ」の文明開化	
第2項 「日本画」の誕生と「毛筆画」教育	
第3項 教育的図画と「筆意」の衰退	
第4項 自由画教育と「臨画」の減少	
第5項 帝国主義と「伝統」	
第6項 敗戦と欧米型教育	
第2節 明治時代における「毛筆画」教育の指導	…116
第1項 調査対象の教科書と指導書	
第2項 指導全体の流れ・姿勢・運筆法	
第3項 紙・筆	
第4項 下描き	
第5項 濃淡と嚙水	
第6項 臨画教育	
第7項 色彩	
第3節 戦前の「日本絵画」を題材とした教育の考察	…141

<b>第3章 「日本絵画」を題材とした美術科教育の現状と課題</b>	…147
<b>：中学校美術科教員対象のアンケート調査から</b>	
第1節 アンケート調査の目的と概要	
第2節 日本絵画の「鑑賞」教育の調査結果と考察	…152
第1項 実施率と背景	
第2項 指導学年と時期・授業時間数・活動場所・指導教材	
第3項 鑑賞内容	
第4項 主要な学習目的	
第5項 必要な支援	
第6項 鑑賞学習が行われない要因	
第3節 日本絵画の「表現」教育の調査結果と考察	…165
第1項 実施率と背景	
第2項 指導学年と時期・授業時間数・活動場所・資料	
第3項 表現内容	
第4項 有効性の高い学び	
第5項 必要な支援	
第6項 表現学習が行われない要因	
第7項 日本絵画を学ぶ意義・生徒の意欲・学習の継続性	
第4節 「日本絵画」を題材とした教育の現状の考察	…186
補論 2020年のT市立小学校現職教員を対象としたアンケート調査	…193
<b>第4章 「日本絵画」を題材とした実践研究と考察</b>	…197
第1節 日本絵画の「鑑賞」教育の実践と考察	
第1項 「鑑賞」教育実践の目的と方法	
第2項 指導計画	
第3項 実践の分析と考察	
第2節 日本絵画の「表現」教育の実践と考察：水墨表現を中心に	…217
第1項 「表現」教育実践の目的と方法	
第2項 指導計画	
第3項 実践の分析と考察	
第3節 「日本絵画」を題材とした「鑑賞・表現」実践研究の成果と課題	…238
<b>終章</b>	…247

## 参考文献

- 資料① 「水墨画・日本画に関する美術教育についてのアンケート」
- 資料② 「図画工作における、墨などを用いた日本の絵画に関するアンケート」
- 資料③ 「にほんのゑ」鑑賞ワークシート
- 資料④ 「にほんのゑ－表現活動のふりかえりと感想－」

## 序章

これまで筆者は、日本画制作の実技研究と美術教育の理論研究、および中学校美術科の教育実践に携わってきた。その中で日本画を水墨画や浮世絵と混同して理解される例が極めて多く、西洋絵画と比較したときに、日本絵画に対する理解が十分に得られていないと強く感じてきた。おそらく現代社会では水墨画や日本画よりも、西洋絵画をより身近で親しみやすいと感じている人の方が多いのではないだろうか。世界的に進むグローバリゼーションの波の中で、日本人が日本絵画について語れない寂しさのようなものも、筆者は感じてきたと言える。

なお本論文では、墨や和紙、岩絵の具といった伝統的な画材を中心として描かれた作品全体を指す時には「日本絵画」とし、明治時代中期以降に描かれ、岩絵の具等を多用した近代日本絵画のみを指すときには「日本画」として論を進める。また墨と水によって作り出される表現を重視して描く絵画作品全体を「水墨画」とし、より日本語的な響きを持ちながら日本の近現代の作品を示すことの多い「墨絵」なども、これに含まれるものとする。

美術界に目を向けると、筆者が制作を行ってきた日本画については、1990年代頃から活発な議論が展開されている。とくに北澤憲昭の『眼の神殿「美術」受容史ノート』<sup>1</sup>を皮切りに、日本画とは日本の「伝統」絵画ではないという考えが広がりはじめ、「日本画」をテーマとしたシンポジウム<sup>2</sup>なども、開かれるようになった。とくに議論の中では、「日本画」という言葉自体が明治時代に創出されたものであることや、日本画を日本の伝統絵画と自己規定する要素の一部であった画材や、その扱われ方においても、明治時代から戦後にかけて大きく変化していたことなどが問題となった。つまり、どこに日本絵画の伝統性や独自性を見るのかといった、ごく根本から「日本画」や「日本絵画」を捉え直す必要性が出てきていたと言える。

他方学校教育では、2006年に改正された教育基本法において、教育の目標に「伝統と文化を尊重」する態度を養うということが規定されたことを受け、2008年度の学習指導要領の改訂以降、美術科では「美術文化の継承と創造への関心を高める」という姿勢が重視されるようになった。これに伴い美術科教科書では、日本絵画の「鑑賞」に関わる図版の掲載が増加し、さらにその特徴についても多くのページが割かれるようになった。また同時に、水

---

<sup>1</sup> 北澤憲昭、『眼の神殿「美術」受容史ノート』、ブリュッケ、2010年（美術出版社1989年初版発行）

<sup>2</sup> 国際シンポジウム「日本画の所在－東アジア絵画としての－」、東京藝術大学、2018年1月27,28日、なお同シンポジウムの内容は、北澤憲昭 古田亮『日本画の所在－東アジアの視点から』（勉誠出版、2020年）として刊行されている。

墨画をはじめとする「表現」教育の題材も、図画工作科の高学年及び美術科教科書に掲載されるようになった。これらの動きは、改正教育基本法に「伝統と文化を尊重」する態度を養うという新しい教育目標が加わったことによるものであることから、美術科において日本絵画を鑑賞すること、水墨表現を行うことは「伝統」「文化」を重視した教育内容として位置付けられていることになる。

しかし、日本画制作を続ける傍ら教育実践に身をおいてきた筆者にとって、「日本画」の定義が揺らぎ、日本絵画の「伝統」もまた不明確な中、何を特色として中学生に伝えるべきかということは、大きな戸惑いであった。また墨を主体として中学生に描かせる絵画の指導法はもちろん、適切な教材すらも定かではなかった。

けれども、筆者が教育現場で対象とする中学生からは、小学校の図画工作科で水墨画を学習しているという声が聞かれはじめた。そこで次のような問いが生まれたのである。彼ら・彼女らが小学校で、日本絵画についてどのような学習をしてきたのか。それらを踏まえて、中学校美術科ではどのような学習が望まれるのか。また、近年取り入れられるようになった水墨画表現では、どのような教材、道具を用いて授業が行われているのか。この新しい美術教育の動きに、現場教員は戸惑いなく、指導に取り組んでいるのだろうか。そして教育基本法改正以降の「伝統」や「文化」が重視された中学校美術科において、これからの未来を生きる子供たちのために、どのような日本絵画教育が求められているのだろうか。

以上のような背景と問題意識から、本研究は出発した。

本論文の目的は、中学校美術科における「日本絵画」に関わる教育の変遷と現状を明らかにし、同科におけるこれからの日本絵画学習の望ましい在り方を探究することにある。そこでまず、学習指導要領および美術科等の教科書の変遷を追いながら、現在の日本絵画鑑賞の充実、および水墨表現学習が定着するまでに至る歴史や動向をとらえる。また中学校教員を対象としたアンケート調査を行い、その結果から美術科における日本絵画教育の現状と課題について検討する。そして筆者自身による美術科における日本絵画を題材とした教育実践の詳察を踏まえ、今後の教育充実のために、望ましい学習の在り方や支援の在り方について考察する。

管見の限り、近年の日本絵画に関わる教育の実態を包括的に捉えようとする研究は見られなかった。また、美術科教育の歴史についての研究は充実しているものの、近年の日本絵画教育の動向を捉えることができるような、日本絵画に焦点化した歴史研究が、十分に行われているとは言えない。

さらに日本絵画の表現学習に適切な画材に対する研究も進んでいるとは言い難い。関口

喜美子による先行研究では、和紙のドーサ引きによる表面加工処理に焦点をあて、この効果を生かした図画工作科における教材化を考案している<sup>3</sup>。しかしドーサの効果に着目した研究であるため、墨ではなく絵の具を用いており毛筆による表現もまた重視した研究とはなっていない。また大竹卓民は、俵屋宗達の「たらし込み」技法に着目し、中国と日本の水墨表現の違いについて、ドーサ引きの紙に描かれた表現効果から迫る研究を行なっている。そして日本水墨画の独自性をこの表現効果に見出しているが、画家として表現する立場から書かれており、中学校などの教育に生かすための研究ではない<sup>4</sup>。

したがって、日本絵画教育の歴史と現状を捉え、より実践的な今後の教育の充実を図ろうとする本研究は、美術教育界に資する研究となる。

日本絵画の教育は「伝統」「文化」と密接に関わるため、教育で取り上げるときには、注意が必要である。これからの時代を生きる子供達にとって、日本絵画に関わる学習の内容が、単に自国文化の伝統を称賛するだけのものであってはならない。グローバル社会を生きる世代にとって必要とされるのは、自国の文化を理解し、自信をもって発信しながら、同時に異文化を理解し、対話していくことができる力なのではないだろうか。本研究は、そうした子供達の育成の一助となることを目指していく。

本論文は次のように構成する。

第1章では、戦後から現在までの学習指導要領と教科書の変遷を論じる。まず2008年の学習指導要領の改訂に伴う変化に着目しながら、中学校における日本絵画に関わる教育につながる視点を理解するために、図画工作科の学習指導要領の内容を調査する。その上で中学校美術科の変遷について分析し考察を行う。また、小学校図画工作科の日本絵画に関わる教育の現状を、学習履歴を問うアンケート調査から分析する。そして教科書に掲載された日本絵画の調査を進めることで、これまでに重視されてきた学習内容の変遷について、分析する。とくに年代別掲載量や、重視されてきた画家作品、学習内容の変遷、さらにその背景を考察することで、現在の教育につながる視点や課題を導き出す。

第2章では、第1章の戦後教育の分析では見られなかった、戦前の日本絵画に関わる教育について取り上げ、現代の教育で生かせる視点を掘り起こす。とくに明治時代は、現在のような鉛筆がまだ一般には普及しておらず、毛筆による書画が一般的な時代である。この毛

---

<sup>3</sup> 関口喜美子、「図画工作科における伝統素材を取り入れた教材化の考案－和紙と礬水を用いた表現と実践」『美術教育学研究』、第52号、2020年、pp.201-208

<sup>4</sup> 大竹卓民、『「たらし込み」はどのように生まれたか 宗達の謎 描く現場からの報告』、日貿出版社、2021年



筆による絵画教育が、文明開化を経てどのように普及し、変遷を遂げ、戦後にかけて衰退していったかの経過をたどり、現代の教育に残る影響と、忘れ去られた視点を再検討する。その上で、これからの教育に生かせる実践的な指導法や、使用画材について考察を行う。

第3章では、第1・2章の歴史的な分析とは異なり、現状における教育現場の実態把握を目的として東京都の中学校美術科教員を対象に行った、日本絵画に関わる教育アンケート調査について述べる。とくに現在の教育現場にみられる実施率を明らかにするとともに、「表現」と「鑑賞」それぞれの学習目的、学習内容、使用教材、必要な支援、有効性の高い学びなどについて詳細に分析し、日本絵画に特徴的な学習の優位性や今後の課題について論じる。

第4章では、第1章で論じた現状につながる日本絵画を題材とした美術教育の動向、第2章で掘り起こされた歴史的研究の考察結果、そして第3章の現職教員を対象とした実態アンケート調査から導き出された分析を反映させ、筆者による教育実践を「鑑賞・表現」の両面で行う。さらに活動後には、生徒の意見や感想をワークシートから分析し、今後の日本絵画を題材とした学習へむけた有効性や発展性について検討する。

終章では、第1・2章の歴史的な分析の考察と、第3・4章の実態アンケート調査・実践研究から得られた考察をまとめ、これからの日本絵画学習が中学校教育で担うべき役割や、果たすべき意義について結論を述べる。

本文は、学術雑誌へ掲載されているものと、掲載予定のものを含むため、削除してあります。

- ・新川美湖、『中学美術における「日本美術文化の継承と創造」の考察－日本の伝統絵画教育の変遷と現状－』、美術教育学研究、第 52 号、2020 年
- ・新川美湖、『中学校美術科の水墨表現における画材の研究』、美術教育学研究、第 54 号、2022 年

## 参考文献

- 青柳正規、『文化立国論 日本のソフトパワーの底力』、筑摩書房、2015年
- 荒井経、『日本画と材料－近代に作られた伝統』、武蔵野美術大学出版局、2015年
- 池田茉美 上野友愛 内田洸、『六本木開館 10 周年記念展 天下を治めた絵師 狩野元信』、サントリー美術館、2017年
- 板倉聖哲 実方葉子 野地耕一郎、『典雅と奇想 明末清初の中国名画』、東京美術、2017年
- E・ボブズボウムと T・レンジャー篇、『創られた伝統』、1982年
- 上野浩道、『形成的表現から平和へ－美術教育私論－』、東京芸術大学出版会、2010年
- 牛澤賢二、『やってみようテキストマイニング－自由回答アンケートの分析に挑戦！－』朝倉書店、2020年
- 遠藤友麗、『改訂 中学校新教育課程の展開 美術編』、明治図書出版株式会社、1999年
- 遠藤友麗、『中学校新教育課程の解説 美術』、第一法規出版株式会社、1996年
- 遠藤友麗、『中学校新教育課程の解説 美術』、株式会社ぎょうせい、2000年
- 大竹卓民、『「たらし込み」はどのように生まれたか 宗達の謎 描く現場からの報告』、日貿出版社、2021年
- 金子一夫、『近代日本美術教育の研究 明治時代』、中央公論美術出版、1992年
- 金子一夫、『近代日本美術教育の研究 明治・大正時代』、中央公論出版社、1999年
- 金子一夫、『美術科教育の方法論と歴史 [新訂増補]』、中央公論美術出版、2003年
- 公益社団法人出光美術館、『水墨の風 長谷川等伯と雪舟』、2017年
- 国立教育政策研究所 教育研究情報データベース <https://erid.nier.go.jp/guideline.html>  
(2021年8月25日閲覧)
- 国立教育政策研究所 教育図書館 HP、<https://www.nier.go.jp/library/> (2021年8月25日閲覧)
- 川端玉章 柿山蕃雄 合著、『帝国毛筆新画帖教授法』三省堂、1902年
- 北澤憲昭 古田亮、『日本画の所在－東アジアの視点から』、勉誠出版、2020年
- 北澤憲昭、『「日本画」の転位』、ブリュッケ、2011年新装版(2003年初版)
- 北澤憲昭、『眼の神殿「美術」受容史ノート』、ブリュッケ、2010年
- 京都国立博物館、『文化財保護法 50 年記念事業 特別展覧会 没後 200 年 若冲』、日本写真印刷株式会社、2000年
- 小林忠、『日本水墨画全史』、講談社学術文庫、2018年
- 佐藤道信、『日本美術誕生』、吉川弘文館、1996年
- 佐藤道信、『美術のアイデンティティー 誰のために、何のために』、吉川弘文館、2007年
- 佐藤道信、『明治国家と近代美術－美の政治学－』、吉川弘文館、1999年

佐藤道信 古田亮 敷田弘子 井土誠 岡本正康 荒井経、『狩野芳崖 悲母観音への軌跡—東京  
藝術大学所蔵品を中心に—』、東京藝術大学美術館 下関市立美術館、2008 年

佐藤康宏、『もっと知りたい伊藤若冲』、東京美術、2019 年

サントリー美術館、山口県立美術館、『扇の国、日本』、サントリー美術館、2018 年

白濱徹、『日本臨画帖教授法』、大日本図書株式会社、1898 年

新藤武弘『山水画とは何か 中国の自然と芸術』、福武書店、1989

関口喜美子、「図画工作科における伝統素材を取り入れた教材可の考案—和紙と礬水を用いた表現と実践」『美術教育学研究』、第 52 号、2020 年、pp.201-208

竹内晋平、「『小学図画』論争と日本画的図画教育—京都府師範学校付属小学校刊行論文の考察を中心に」『美術教育学』美術科教育学会誌 31 (0)、2010 年

東京国立近代美術館編、『琳派 RIMPA 国際シンポジウム報告書』、星雲社、2006 年

東京藝術大学美術館 下関市立美術館『狩野芳崖 悲母観音への軌跡—東京藝術大学所蔵品  
を中心に—』、2008 年

辻惟雄、『辻惟雄集 第 2 巻 「あそび」とアニミズムの美術』、岩波書店、2013 年

辻惟雄、『日本美術の見方』、岩波書店、1992 年

辻惟雄、『奇想の系譜 又兵衛—国吉』ちくま学芸文庫、2019 年

辻成史、『伝統 その創出と転生』、新曜社、2003 年

戸田禎佑、『日本美術の見方 ◎中国との比較による』、角川書店、1997 年

新村出、『広辞苑』、岩波書店、1955 年

「日本画」シンポジウム記録集編集委員会編、『「日本画」—内と外の間で シンポジウム〈転  
移する「日本画」〉記録集』、星雲社、2004 年

橋本雅邦、『小学毛筆画帖 教授用書』、集英堂、1902 年

橋本泰幸、『ジャポニスムと日米の美術教育 濃淡の軌跡』、建帛社、2001 年

広島大学図書館 教科書コレクション画像データベース HP、  
<http://dc.lib.hiroshima-u.ac.jp/text/detail/295220170131194201> (2021 年 8 月 25 日閲覧)

福本謹一 水島尚喜、『平成 20 年改訂 中学校教育課程講座 美術』、株式会社ぎょうせい、  
2009 年

古田亮、『日本画とはなんだったのか 近代日本画史論』、角川選書、2018 年

古田亮、『俵屋宗達 琳派の祖の真実』、平凡社、2010 年

古田亮、『視覚と心象の日本美術史 作家・作品・鑑賞者のはざま』、ミネルバ書房、2014 年

真鍋一男 新川昭一、『改訂 中学校学習指導要領の展開 美術科編』、明治図書出版株式会社、  
1977 年

武蔵野美術大学 造形ファイル HP、<http://zokeifile.musabi.ac.jp> (2021年8月25日閲覧)  
村重寧、『もっと知りたい俵屋宗達』、東京美術、2018年  
室伏哲郎、『ライバル日本美術史』、創元社、2008年  
文部科学省 HP、[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/new-cs/idea/1304372.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/idea/1304372.htm)  
(2021年8月25日閲覧)  
文部科学省、『小学校学習指導要領解説 図画工作編』、日本文教出版株式会社、2008年  
文部科学省、『小学校学習指導書(平成29年告示)解説 図画工作編』、日本文教出版株式  
会社、2018年  
文部科学省、『中学校学習指導要領解説 美術編』、日本文教出版株式会社、2008年  
文部科学省、『中学校学習指導要領解説(平成29年告示)美術編』日本文教出版、2018年  
文部省、『初等科図画 1 教師用』1942年  
文部省、『尋常小学図画 第1学年 教師用』、1932年  
文部省、『新定画帖 第3学年 教師用』、1910年  
文部省、『中学校学習指導要領(平成10年12月)解説 美術編』、日本文教出版、1989年  
文部省、『中学校指導書』、開隆堂出版株式会社、1973年  
文部省、『中学指導書 美術編』、日本文教出版、1989年  
八代幸雄、『水墨画』、岩波新書、2019年  
山形寛、『美術教育概論』宝文館、1958年  
山口静一訳、『ジョサイア・コンダー 河鍋暁斎—本画と画稿—』、暁斎記念館、1984年  
山口静一、『フェノロサ・上』『フェノロサ・下』、三省堂、1982年  
米倉迪夫、『絵は語る4 源頼朝像—沈黙の肖像画』平凡社、1998年  
李御寧、『「縮み」志向の日本人』、講談社学術文庫、2015年  
早稲田大学図書館 古典籍総合データベース HP、  
<https://www.wul.waseda.ac.jp/kotenseki/index.html> (2021年8月25日閲覧)  
「私の履歴書 ジョー・プライス」『日本経済新聞』、2017年3月1日より31回連載  
Friedman, Robert. *Life Millennium: The 100 Most Important Events and People of the Past, 1000*. Bulfinch Pr., New York.1998.